# ワスレナグモ *Calommata signata* Karsch の採集

齋 藤 三 郎

北海道帝國大學農學部

本種は1878年に F. Karsch が Wilhelm Dönitz[1] の採集に依る雌6個體に就いての記載を原記とし續いて Wilhelm Bösenberg と Embrk Strand の兩氏が1905年にベルリン博物館に所藏する前標本を再記録し其の末尾に該標本は東京にて採集されしものにして尚ミュンヘン博物館に北日本採集の1個體藏する旨記されたものである。以後採集の記録のない地蜘蛛科 Atypidae に屬する種である[2]。



ワスレナグモ

昭和十七年秋に東北帝國大學理學部の木村有香博士から知人を介して種類査定の依頼を受けたが調査の機會なく今日に至り漸く本種に該當するものなるを知り得た。3個體共昭和十七

1) 江崎悌三博士 (1935) に依るに Dönitz は 1873—1884年間東大解剖學教授として在留せしにより其の當時の採集ならむ。

2) ワスレナグモなる和名は岸田久吉氏 (1913) が日本產ヂグモ科を紹介せる折本邦に其の標本無く識者の注意を惹かむ爲に銘名せるものの如し。湯原清次氏 (1930) の本種として圖示し居るは氏の圖より本種にあらざるは明なり。拙著 (1938) の記載並に圖は F. Karsch(1878)並に W. Bösenberg 及び E. Strand(1905)に依れるものなり。

年(1942)八月，仙臺市にて採集されしものにして1個體のみ雌の成體にして他は幼體である。體長24粍を示し上顎基節及び絲疣を含む時は30粍に達し腹部は15粍，步脚は第一步脚より夫々 13, 14.5, 13.5, 15粍を示し Donitz 採集のものより著しく大形である。第一步脚が他の三步脚に比して著しく細く略々觸肢に近似し6眼は幅廣い眼域を示しヂグモ *Atypus karscyi* Dönitz と一見區別さる。擱筆に當り木村博士に深く感謝す。

## 引　用　文　獻


F. Karsch: Verha dl. d. N. V., 36, p. 60

W. Bösenberg u. E. Strand: Abhandl. d. Senckenb. Naturf. Gesellsch., 50, p. 101

岸 田 久 吉：科學世界, 7, p. 415

湯 原 淸 次：蜘蛛の研究, p. 61

齋 藤 三 郎：日本動物分類, 9, p. 50